

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成20年度 技術情報第7号（ヒメトビウカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率と
薬剤感受性検定結果）について（送付）

平成20年6月11日付け技術情報第6号でヒメトビウカの飛来状況等についてお知らせしましたが、その後実施した保毒虫率調査結果と薬剤感受性検定結果を下記のとおり取りまとめましたので送付します。なお、今後のイネ縞葉枯病の発生動向に留意されるようお願いいたします。

平成20年度 技術情報第7号

1 ヒメトビウカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

平成20年7月2～8日に、県内14地点の早期水稻ほ場において採集（捕虫網によるすくい取り）したヒメトビウカについて、イネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率調査（ELISA法）を行った。その結果、平均保毒虫率は5.7%（前年16.7%）であった。
なお、地域別の調査結果は下表のとおりである。

表 地域別ヒメトビウカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

採集地域名	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1. 日置市 日吉町 吉利	119	6	5.0
2. 日置市 吹上町 上田尻	70	1	1.4
3. 南さつま市 金峰町 大野（農業開発総合センター内）	100	17	17.0
4. 南さつま市 金峰町 田布施	50	1	2.0
5. 南さつま市 加世田益山	120	5	4.2
6. 南さつま市 大浦町 干拓	23	2	8.7
7. 南九州市 穎娃町 御領	47	2	4.3
8. 指宿市 開聞仙田	38	2	5.3
9. 志布志市 有明町 野井倉	15	1	6.7
10. 大崎町 横瀬	8	0	0
11. 東串良町 川東	18	0	0
12. 鹿屋市 串良町 有里	28	1	3.6
13. 鹿屋市 吾平町 上名	17	1	5.9
14. 錦江町 田代川原	66	2	3.0
合計・平均	719	41	5.7
合計・平均（前年）	114	19	16.7

2 ヒメトビウンカの薬剤感受性検定結果

本田散布剤として使用される，バッサ粉剤30DL，トレボン粉剤DL，スタークル粉剤DL，ダントツH粉剤DL及びモンラブアプロードF粉剤DLの5剤について，ベルジャーダスター法による薬剤感受性検定試験を行った結果は下表のとおりである。

表 ヒメトビウンカの薬剤感受性検定結果

(1) 幼虫（検定年月日：2008.6.25～28）

供試薬剤	供試虫数	死亡率 (%)				
		1時間後	3時間後	6時間後	24時間後	72時間後
トレボン粉剤DL	33	18.2	63.6	72.7	72.7	75.8
モンラブアプロードF粉剤DL	33	—	—	—	3.0	15.2
無処理	30	0	6.7	6.7	6.7	6.7

※ 供試虫は，2008年6月9日に農業開発総合センター内のほ場で採集し，累代飼育した3～4齢幼虫。
なお，表中の—は調査なし。

(2) 成虫（検定年月日：2008.7.4～7）

供試薬剤	供試虫数	死亡率 (%)				
		1時間後	3時間後	6時間後	24時間後	72時間後
バッサ粉剤30DL	29	10.3	34.5	37.9	44.8	51.7
トレボン粉剤DL	29	10.3	34.5	37.9	57.6	72.4
スタークル粉剤DL	29	51.7	55.2	55.2	55.2	93.1
ダントツH粉剤DL	28	3.6	3.6	7.1	21.4	60.7
無処理	30	0	0	0	0	6.7

※ 供試虫は，2008年6月9日に農業開発総合センター内のほ場で採集し，累代飼育した長翅雌成虫。

(3) 結果の概要

ア 幼虫に対しては，72時間後の死亡率がトレボン粉剤DLで75.8%，モンラブアプロードF粉剤DLで15.2%であった。

イ 成虫に対しては，72時間後の死亡率がスタークル粉剤DLで93.1%，トレボン粉剤DLで72.4%，バッサ粉剤DLとダントツH粉剤DLは約50～60%であった。

ウ 今回供試した薬剤の中では，ヒメトビウンカに対するスタークル剤（成分名：ジノテフラン）の効果は高かった。また，アプロード剤（成分名：ブプロフェジン）の効果は低下しているものと考えられた。なお，トレボン剤（成分名：エトフェプロックス）は成幼虫に対してある程度の効果が期待できるものと考えられた。

エ 今回の結果は，あくまでも実験室内で粉剤を直接虫体に処理したもので，防除指導上の参考データとして活用いただきたい。